

## 1 つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

冬休みあと三日。教室では「雪だるま作るんだ」「スケート行くよ!」と、楽しそうな声が次々と上がっていた。みんなの笑顔の中で、ゆいは少しだけ元気がなかった。冬休みの前半、両親が仕事で家にいない日が多いと知り、胸の中にはつんと不安が残っていたからだ。

家に帰ると、テーブルの上に母からのメモがあつた。「ゆいぐ。今日は遅くなるけれど、ご飯は温めて食べてね。」その文字を見つめると、以前母に言われた言葉を思い出した。「冬休み、自分でできることを探してみてね。大丈夫だから。」その言葉は優しかった。でもゆいには、「自分で過ぐ」すとこうことが急に難しく感じられた。

次の日、図書委員の当番をしていると、友達のあおいが近づいてきた。「ゆいは冬休み、何するの?」と聞かれ、「まだ決まってない」と答えると、あおいはうれしそうに言った。「私はね、読書の記録ノートを作るの。お気に入りの場面を書くと楽しいよ。」その言葉を聞いて、ゆいは少し興味がわいた。「ひとりでもできることがあるんだ…。」不安の中に、ほんの少し光がさした。

そして冬休み初日。両親を見送ると、家の中が急に静かになった。胸がぎゅっとしたが、「図書館に行つてみよう」と気持ちを切り替え、マフラーを巻いて家を出た。

図書館に入ると、ほんのり温かい空気と紙の匂いがゆいを包んだ。奥の席で、同じクラスのひびきがもう宿題をしていた。「え、もうやつてるの?」とゆいが驚くと、ひびきは「早く終わらせたいからね」と笑った。

その姿を見て、ゆいも席に座り宿題を開いた。最初は集中できず、時計ばかり見てしまったが、何問か解けるうちに少しリズムが出てきた。気づけば一時間以上経ち、ノートには思ったより多くの答えが並んでいた。「やればできるんだ…。」その気づき

が、胸に小さな自信を生んだ。

午後、本を一冊借りて帰ったゆいは、あおいに聞いた「読書記録ノート」を作り始めた。タイトルを書き、気になった文を書き写し、読んで感じたことをていねいに書いていく。白いページが自分の言葉で少しずつ満たされていくのがうれしく、時間が過ぎるのも忘れてしまった。

それから数日、ゆいの冬休みは自然と形を作つていった。午前は宿題や調べ学習、午後は読書と記録ノートづくり、夜は少しだけゲームをする。ひとりの時間はさみしいだけと思っていたけれど、「自分の好きなことを見つける時間」に変わりつつあった。

冬休み後半、久しぶりに両親と家でゆっくり過ごす日があった。ゆいは、途中まで書いた記録ノートを見せた。ページを見た母は「すごいね、こんなに書いたの?」とほほえみ、父も「工夫してがんばったんだな」とほめてくれた。胸の奥があたたかくなり、ゆいは少し照れながらもうれしかった。

冬休みが終わる前の日、ゆいは宿題をまとめ、記録ノートを机の上に並べた。最初は不安でいっぱいだった冬休みが、ふり返れば「自分で考えて過ぐせた時間」になっていた。ゆいは静かに思った。「できないと思っても、やってみたら案外できるんだ。」その言葉とともに、冬休みで育った新しい自信が、ゆいの中でしっかりと息づいていた。



(1) ゆいが冬休みの前に元気がなかつた理由を、文章中の言葉を使って三十五字以内で書きましょ。

ゆいが冬休みの前に元気がなかつた理由を、文章中の言葉を使って三十五字以内で書きましょう。

(4) 記録ノートを書き進めるうちに、ゆいの気持ちはどのように変化しましたか。四十字以内で書きなさい。

—

—

(2) 本文の内容と正しけれは○ ちがっていれは×を○け

(5) 次の出来事を起こし、九川は立へかうなこ  
ちがいていわれは×をつけ  
本文の内容と正しければ○  
なさい。

( ) あおいは、冬休みは家族と旅行に行くと話していた。

( ) 図書館でゆいは、ひびきがすでに宿題をしているのを見た。

( ) ゆいは読書記録ノートを書くことに最初から自信があった。

ゆいの母は、ゆいが作った記録ノートを見  
てほめてくれた。

い。ゆいが図書館へ行こうと思ったのは、どんな気持ちからですか。最も適切なものを選び番号を○で囲みなさい。

① 家でゲームをしたくなかったから。  
② 何か自分でできることを探したかったから。  
③ ひびきと一緒に遊びたかったから。  
④ 本を返す日が近かつたから。

この物語全体を通して、作者がいちばん伝えたいことをして適切なものを一つ番号を○で囲みなさい。

① 冬休みは宿題を早く終わらせたほうがよい。

② 一人の時間はさみしいだけなので、できるだけ外で遊ぶべきだ。

③ 図書館は冬休みに行く場所として人気がある。

④ 自分で考えて行動することで、新しい自信が生まれる。

プリントの森  <https://print-mori.com>

# 小学5年生 文章問題17

学習日

月 日

(1) ゆいが冬休みの前に元気がなかつた理由を、文章中の言葉を使って三十五字以内で書きましょう。

(1)

**解答例)**  
両親が仕事で家にいない日が多く、どう過ごせばよいか不安だったため。

(4) 記録ノートを書き進めるうちに、ゆいの気持ちはどのように変化しましたか。四十字以内で書きなさい。

(4)

**解答例)**  
最初は不安だったが、書くうちに自信がわき、自分の時間を楽しめるようになった。

(2) 本文の内容と正しければ○、ちがつていれば×をつけなさい。

- ( × ) あおいは、冬休みは家族と旅行に行くと話していた。
- ( ○ ) 図書館でゆいは、ひびきがすでに宿題をしているのを見た。
- ( × ) ゆいは読書記録ノートを書くことに最初から自信があった。
- ( ○ ) ゆいの母は、ゆいが作った記録ノートを見てほめてくれた。

(3)

ゆいが図書館へ行こうと思ったのは、どんな気持ちからですか。最も適切なものを選び番号を○で囲みなさい。

- ① 家でゲームをしたくなかったから。  
② 何か自分でできることを探したかったから。  
③ ひびきと一緒に遊びたかったから。  
④ 本を返す日が近かつたから。

(6) この物語全体を通して、作者がいちばん伝えたいこととして適切なものを一つ番号を○で囲みなさい。

- ① 冬休みは宿題を早く終わらせたほうがよい。  
② 一人の時間はさみしいだけなので、できるだけ外で遊ぶべきだ。  
③ 図書館は冬休みに行く場所として人気がある。  
自分で考えて行動することで、新しい自信が生まれる。